

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	97人	算数	98人	理科	100人
第5学年	国語	87人	算数	87人	理科	89人

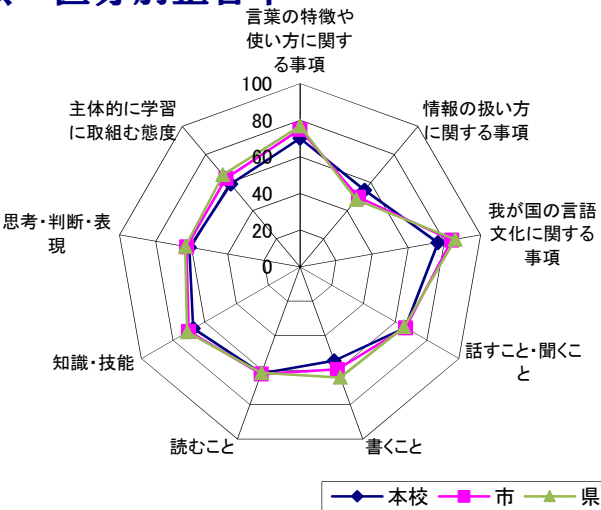
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.1	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	54.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.4	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	66.3	66.5	65.5
	書くこと	54.5	59.6	64.2
	読むこと	61.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	67.3	70.2	71.1
	思考・判断・表現	61.3	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	58.9	63.0	65.5



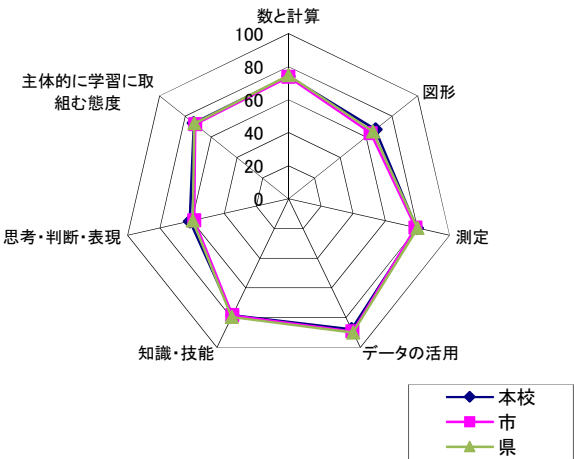
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、70.1%と県、市の正答率より低い。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく読むことができる」3問の平均は52.4%で市の正答率を12.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。またAIDリルを効果的に活用する。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、54.7%と県、市の正答率より高い。 ○「国語辞典の使い方を理解することができる」問題は58.4%で市の正答率を5.1ポイント上回っている。	・わからない言葉があった際、教科にかかわらずすぐに国語辞典をひくことのできる環境を整え、国語辞典の使い方をより一層身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は、76.4%と県、市の正答率より低い。 ●「漢字のへんやつくりを理解することができる」問題は76.4%で市の正答率を7.6ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際に、へんやつくり注目させながら指導していく。また、漢字辞典の学習において、部首索引を使う活動を通し、部首への興味・関心をもたせていく。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、66.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる」問題は47.2%で市の正答率を8.6ポイント上回っている。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」問題は60.7%で市の正答率を9.1ポイント下回っている。	・授業において話し合いや意見交換など、伝え合う活動を取り入れ、より一層情報を正しく捉える力を身に付けさせる。 ・授業において意見を出す際には、自分の考えが相手に伝わるよう理由を挙げて発言させるようにする。またその際、自信をもって発言できるよう、発表の仕方の型を示しておく。
書くこと	・領域の正答率は、54.5%と県、市の正答率と比べて低い。 ●「理由や事例を明確にして文章を書いている」問題は67.8%で市の正答率を7.1ポイント下回っている。 ●24.7%の児童が無回答である。	・考えを書く際にはひな形を提示し、定型文を基にして書く練習を行い、段階を追って文章を書く力を身に付けられるようにする。 ・すべての問題に解答できるように、時間配分を考えた問題の取り組み方を指導していく。
読むこと	・領域の正答率は、61.8%と県、市の正答率と同程度である。	・読書活動を充実させ、場面の様子について叙述を基に捉える機会を増やす。 ・授業において、段落の要約を行う活動を取り入れ、段落の内容を正確に捉えられるようにする。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	73.8	74.8
	図形	67.3	63.7	65.3
	測定	79.6	78.9	80.1
	データの活用	87.8	89.3	90.0
観点	知識・技能	78.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	61.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	73.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

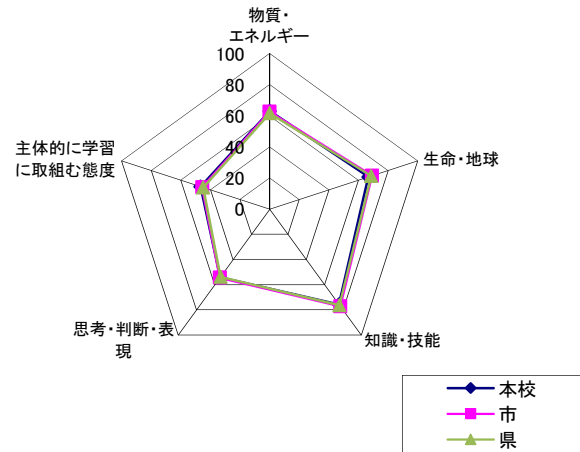
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、74.1%と県、市の正答率と同程度である。 ○「2けた×2けた＝4けたの計算ができる」問題では、72.2%で市の正答率より7ポイント上回っている。 ●「分子が1の分数が何個で1になるかを考える」問題では、47.8%で、市の正答率を8.6ポイント下回っている。	・分数の概念の理解が不十分な児童が見られるので、4年での学習の際に既習事項を振り返り、定着度を高めていく。
図形	・領域の正答率は、67.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「円の直径について考える」問題では、91.1%で市の正答率より6.1ポイント上回っている。 ●「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明できる」問題では市の平均を5.7ポイント上回っているが、正答率が低く、無回答者も多かった。	・授業の中で「理由を説明する」「文章で説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。
測定	・領域の正答率は、79.6%と県、市の正答率と同程度である。 ○「地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる」問題では、市の正答率と同程度であるが、83.3%で比較的高い正答率であった。 ●「身近にあるものの重さを推察して適切な単位を使って表すことができる」問題では、72.2%と正答率が低かった。	・日頃から身近なものの重さに興味をもち、実際に量ってみる活動を取り入れていく。
データの活用	・領域の正答率は、87.8%と県、市の正答率と同程度である。 ○「棒グラフで、1目盛りの表す数が分かる」問題では、90.0%と高い正答率であった。	・数学的活動を通して、表とグラフの関係についての理解を深める指導を続けていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.0	62.5	61.5
	生命・地球	66.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	75.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	54.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	46.7	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は、63.0%と県、市の正答率と同程度である。 ○「大きい音はふるえ方が大きいことを理解している」問題は、87%で市の正答率を6.4ポイント上回っている。 ●「種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考えることができる」問題は、28.3%と正答率がかなり低い結果であった。 ●「自由に動けるようにした磁石のN極は、北を指すことを理解している」問題は、33.7%で、無回答も25%と正答率がかなり低い結果であった。	・光のせいしつ、音のせいしつの実験などに関する問題の正答率は高かったので、体験的な学習を引き続き行い実験を基に考察したことを自分の言葉で表現させていく。 ・問題を理解する力とともに、論理的に考える力を付ける活動を行っていく。
生命・地球	・領域の正答率は、66.7%と県、市の正答率と同程度である。 ○「棒温度計の目盛りの読み方を身に付けている」問題は、89.1%で市の正答率を7.8ポイント上回っている。 ●「昆虫のあしは胸についていることを理解している」問題は、正答率71.7%で、市と正答率を13.2ポイント下回っている。 ●「記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見出すことができる」問題は、正答率が75%で、市の正答率を6.9ポイント下回っている。	・実物のホウセンカやヒマワリの成長の様子、昆虫などを観察する体験が不足していると考えられるので、できるだけ実物に触れることができる機会を増やしていく。 ・実験や観察を通して気付いたことを発表する活動を通し、共通点や差異点を話し合う活動を取り入れる。 ・太陽の動きを知るために日時計を作成し、基礎基本の充実を図る。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的に答えた児童の割合は、すべての教科において90%以上である。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合も97.8%と高い。例として、算数が好きと肯定的割合は65.2%であるが、大切だと思う肯定的割合は96.7%と高くなっている。授業の様子を見ても、課題解決のために真剣に取り組み、分からないことを分からないままにしない、前向きな態度がうかがえる。

○「授業を集中して受けている」の肯定的に答えた児童の割合は90.2%である。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています」の肯定的に答えた児童の割合は93.5%である。どの教科においても、意欲的に取り組む様子が見られる。友達との意見交換では、話をよく聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。さらに、グループでの話し合いを多く取り入れることで、自分の考えに自信をもてるようにし、友達の前で自分の考えや意見を発表することに自信をもたせたい。

●「家で学校の授業の予習をしている」と肯定的に答えた児童の割合は42.4%で市と比べて11.0ポイント下回っている。自主学習等で、学校で学習する前に教科書を読んだり、新出漢字を調べたりするなど具体的な予習方法を示して、見直しをもって計画的に学習する習慣を身に付けられるように声かけをしていきたい。

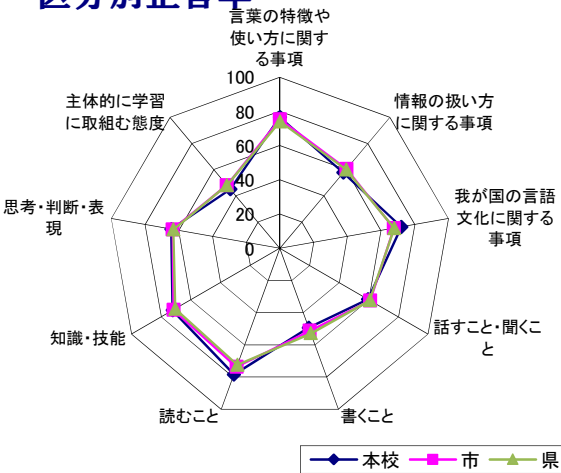
●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と肯定的に答えた児童の割合は50.0%で市と比べて10.2ポイント下回っている。下校後にスポーツ少年団参加や習い事によって過ごし方が多様化していると考えられるが、曜日ごとの学習時間や開始時刻などを再度見直すよう促したい。

●「国語の問題をとく時間は十分でしたか」の肯定的割合は53.2%で、市と比べて12ポイント下回っている。慣れない形式の問題に対する戸惑いがあったことも考えられるので、様々な条件の下で文章を書く経験をさせたい。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.7	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	57.8	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	72.0	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	59.5	61.0	60.7
	書くこと	49.3	51.2	52.8
観点	読むこと	78.4	73.7	72.4
	知識・技能	72.3	71.7	70.6
	思考・判断・表現	64.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	45.1	48.2	48.1



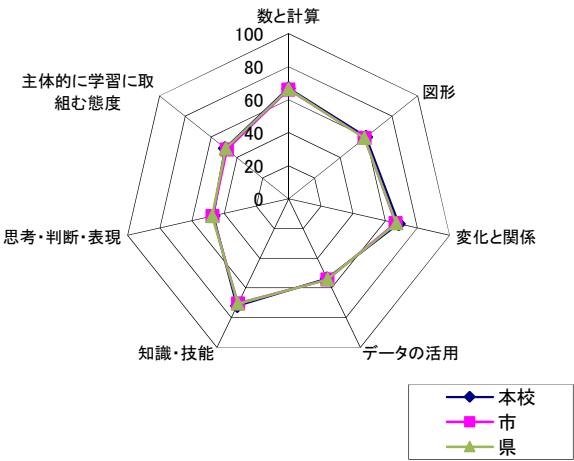
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、76.7%と県、市の正答率と同程度である。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく読むことができる」3問の校内正答率は市の正答率をいずれも上回っている。 ●「連用修飾語について理解している」問題は12.0%で市の正答率を9.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。 ・文章の構成を確認したり、主語・述語・修飾語を意識して文章を書いたりすることを繰り返し行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、57.8%と県、市の正答率と同程度である。 ○「情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している」問題は70.7%で市の正答率を5.2ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」問題は26.7%で市の正答率を9.8ポイント下回っている。	・資料やデータをもとに理由や根拠を明確にしながら話したり、書いたりする学習を授業の中で取り入れていく。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、72.0%と県、市の正答率と同程度である。 ○「ことわざの意味を知り、正しく使っている」問題は72.0%で市の正答率と同程度である。	・物語文や説明文などで、ことわざが載っていた場合、国語辞典を用いて意味を調べることで、ことわざに慣れ親しむようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、59.5%と県、市の正答率と同程度である。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」問題は90.7%でよくできている。 ●「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」問題は26.7%で市の正答率を9.8ポイント下回っている。	・資料やデータをもとに理由や根拠を明確にしながら聞いたり話したりするように指導していく。
書くこと	・領域の正答率は、49.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」問題は49.3%で市の正答率と同程度である。 ●「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている」問題は49.3%で市の正答率を6.7ポイント下回っている。	・テーマを与え、条件に合わせた文章を書く機会を設ける。
読むこと	・領域の正答率は、78.4%と県、市の正答率と同程度である。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している」問題は96.0%で市の正答率を8.1ポイント上回っている。 ●「叙述を基に文章の内容を捉えている」問題は76.0%で市の正答率を2.9ポイント下回っている。	・説明文の授業では、叙述に沿って丁寧に読みとらせ、内容を理解できるように指導していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.9	66.1	66.4
	図形	60.0	58.9	58.8
	変化と関係	68.3	66.6	67.0
	データの活用	53.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	71.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	46.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	49.1	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

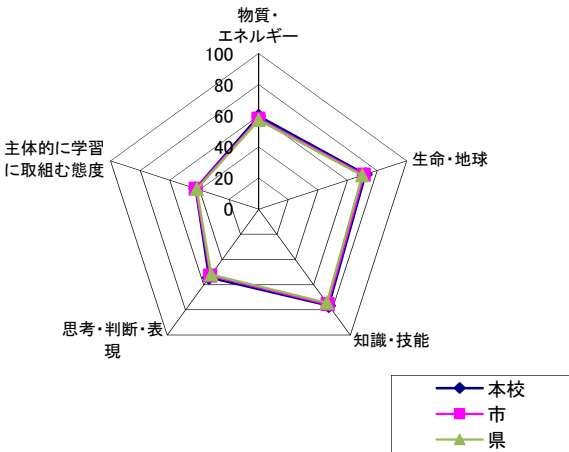
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、66.9%と県、市の正答率と同程度である。 ○「小数第二位のわり算ができる」の問題では、72.0%で市の正答率より6.3ポイント上回っている。 ●「千の位までのがい数の表し方」の問題では、70.7%で市の正答率より5.2ポイント下回っている。	・基本的な計算力を高めるために、朝の学習等を利用し指導していく。また、がい数の表し方について練習していきながら、間違いを理解し、同じミスを少なくしていくようにする。
図形	・領域の正答率は、60.0%と県、市の正答率と同程度である。 ○「平行四辺形の作図」の問題では、65.3%で市の正答率より8.4ポイント上回っている。 ●「教室のおよその面積を求める」の問題では、26.7%で市の正答率より10.0ポイント下回っている。	・身の回りにある形の面積や体積などについて考察することによって、大きさの感覚を養う。
変化と関係	・領域の正答率は、68.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」の問題では、56.0%で市の正答率より5.7ポイント上回っている。	・5年生になると数直線を読み取り、実際にノートに記入する場面が増えてくる。こうした機会を有効に利用し、問題を解く際には、意図的に数直線を書き、そこから数量の変わり方が理解できるように指導していく。
データの活用	・領域の正答率は、53.7%と県、市の正答率と同程度である。 ●「示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、分数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する」問題では、30.7%で正答率が低く、無回答も多かった。	・算数の時間以外にも表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、記述式で答えたりする場をつくり、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.7	58.1	57.2
	生命・地球	72.1	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	54.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	42.6	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は、59.7%と県、市の正答率と同程度である。 ○「物の体積と力」の「閉じ込められた空気のもののような性質を利用しているのかを説明する」問題では、70.1%で市の正答率を10.3ポイント上回っている。 ●「電気のはたらき」の「回路を作図する」問題では、28.6%で市の正答率を6.2ポイント下回っている。 ●「物の体積と温度」の問題では、「金属のふたを湯につけると開けやすくなる理由について、温度による金属の体積の変化をもとに記述できる」問題では、42.9%で市の正答率を4.7ポイント下回っている。 ●「水のすがた」の「水の量のちがいと沸騰する温度を関係付けて記述する」問題では、市の正答率より高かったものの、無回答率が20.8%であった。	・「予想や仮説を立てる」「実験計画を立てる」「自分の言葉で考えをまとめる」時間を大切にし、条件整理能力や論理的思考力の向上を図る。 ・実験の結果を基に、考察を自分の言葉で表現できる機会を増やす。 ・実験などで体験的に学んだ知識は身に付いているとうかがえる結果から、学んだ知識を身近な事象と関連付けて考えさせる機会を増やす。 ・導入時や問題作成時において、教師の発問などから事象の前後の変化に着目させ、理科の見方や考え方が養われるようにする。
生命・地球	・領域の正答率は、72.1%と県、市の正答率と同程度である。 ○「自然の中の水」の「水を入れて覆いをしたビーカーの数日後の様子を指摘する」問題では、89.6%で市の正答率を14.7ポイント上回っている。 ●「1年間の動物のようす」の「オオカマキリの冬の越し方」に関する問題では、74.0%で市の正答率を11.2ポイント下回っている。 ●「天気のようにと気温」の「記録温度計の記録から、天気の変化を推測する」問題では、23.4%で市の正答率を7.4ポイント下回っている。	・植物と昆虫の成長の仕方が混同していることがうかがえることから、種ごとに特徴を明確に分類して、なぜそのような行動をとるのか、意味を考える機会を増やす。 ・記録温度計の記録の見方に慣れていない様子がうかがえることから、観察や調べ学習を通して、グラフを読み取る力を養えるようにする。 ・自然現象への興味を高める導入を工夫したり、家庭の協力を得たりして自然現象への観察の機会を増やす。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と肯定的に答えた児童の割合は73.1%で、市と比べて11ポイント以上高く、自主学習が定着してきたことがうかがえる。校内で共通理解を図って取り組んできた成果が表れていると考えられる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と肯定的に答えた児童の割合は79.5%と市と比べて15.8ポイント高く、本やタブレット端末の活用の仕方が分かり、自ら調べようとする意欲があることがうかがえる。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」では、肯定的割合が100%で市を6.3ポイント上回っている。「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」や「自分のよさを人のために生かしたいと思う」また、「自分がもっている能力を十分に発きたい」の肯定的割合がいずれも90%以上と高く、相手のために何かをしたいという気持ちが原動力になり、役割を果たそうという意識の高さにつながっていると考えられる。

●「自分にはよいところがあると思う」では肯定的割合が76.9%で市と比べて5.8ポイント下回っている。「はい」と答えた割合は51.3%で市よりもやや低く、「いいえ」と答えた割合は15.4%と市と比べて8.2ポイント上回っている。一人一人のよさを児童同士で認め合える雰囲気づくりや、教員の励ましなどを様々な場面で設定し、自分に自信がもてるような働きかけをしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えた割合は71.8%で、市と比べて9.4ポイント上回っている。書くことに対して抵抗感があると考えられるので、書く経験を増やしたり、書き方の例や友達が書いた文章を紹介したりすることで、書くことに慣れさせたい。

宇都宮市立豊郷南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な学習を通して、読解力・表現力を高める国語科指導に取り組む	・読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 ・相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。	・国語「書くこと」領域において市の平均と比べ4年生で5.1ポイント、5年生1.9ポイント低い。 ・質問紙調査「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」に対し、市の平均と比べ4年生は2.6ポイント低いのに対し、5年生は9.4ポイント上回っている。書くことを苦手としている割合が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語、算数において問題を解く時間が十分でなかった児童が5年生では国語55%、算数50%、4年生国語45%、算数25%であった。文章を書くことや理由を説明することに時間を必要としている。	・様々な条件のもとで文章を書かせる。 ・求められている答えの解き方を説明する	「思考・判断・表現」の授業において自分の考えを書かせたり、理由を説明させたりし、自分の考えを表現する学習活動を位置付ける。